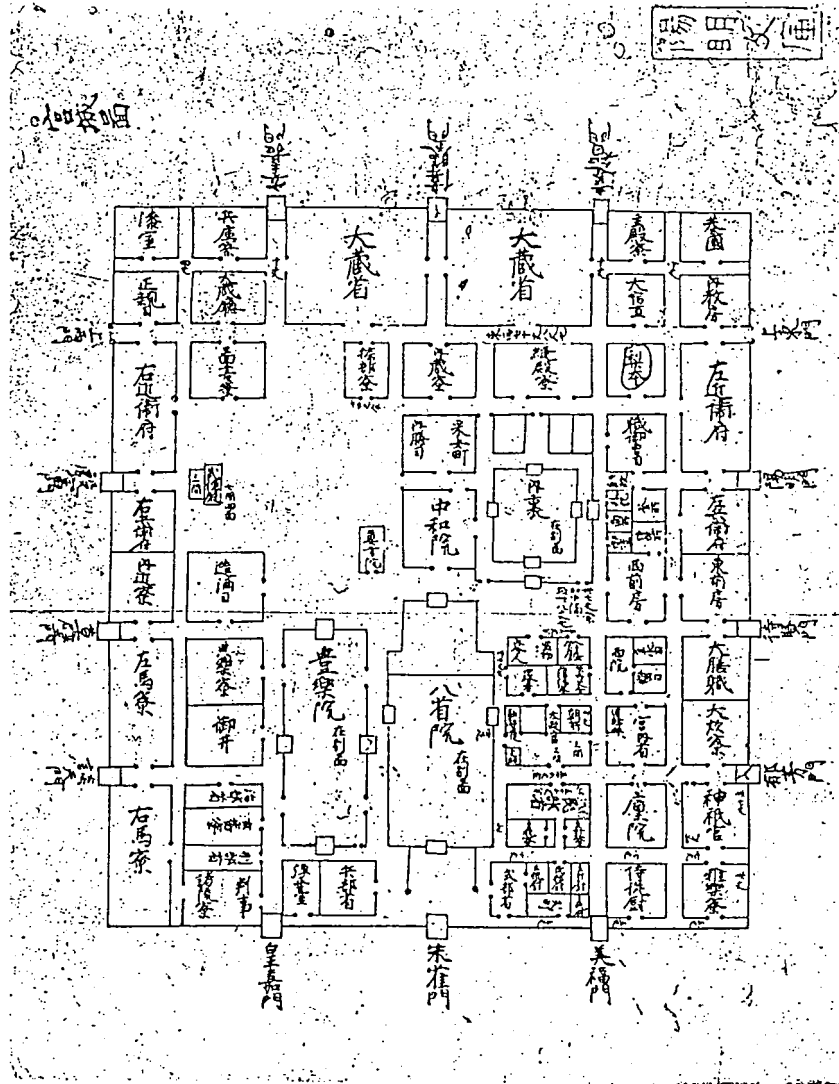


ふらくいんせいでん
 平安宮 豊楽院正殿跡

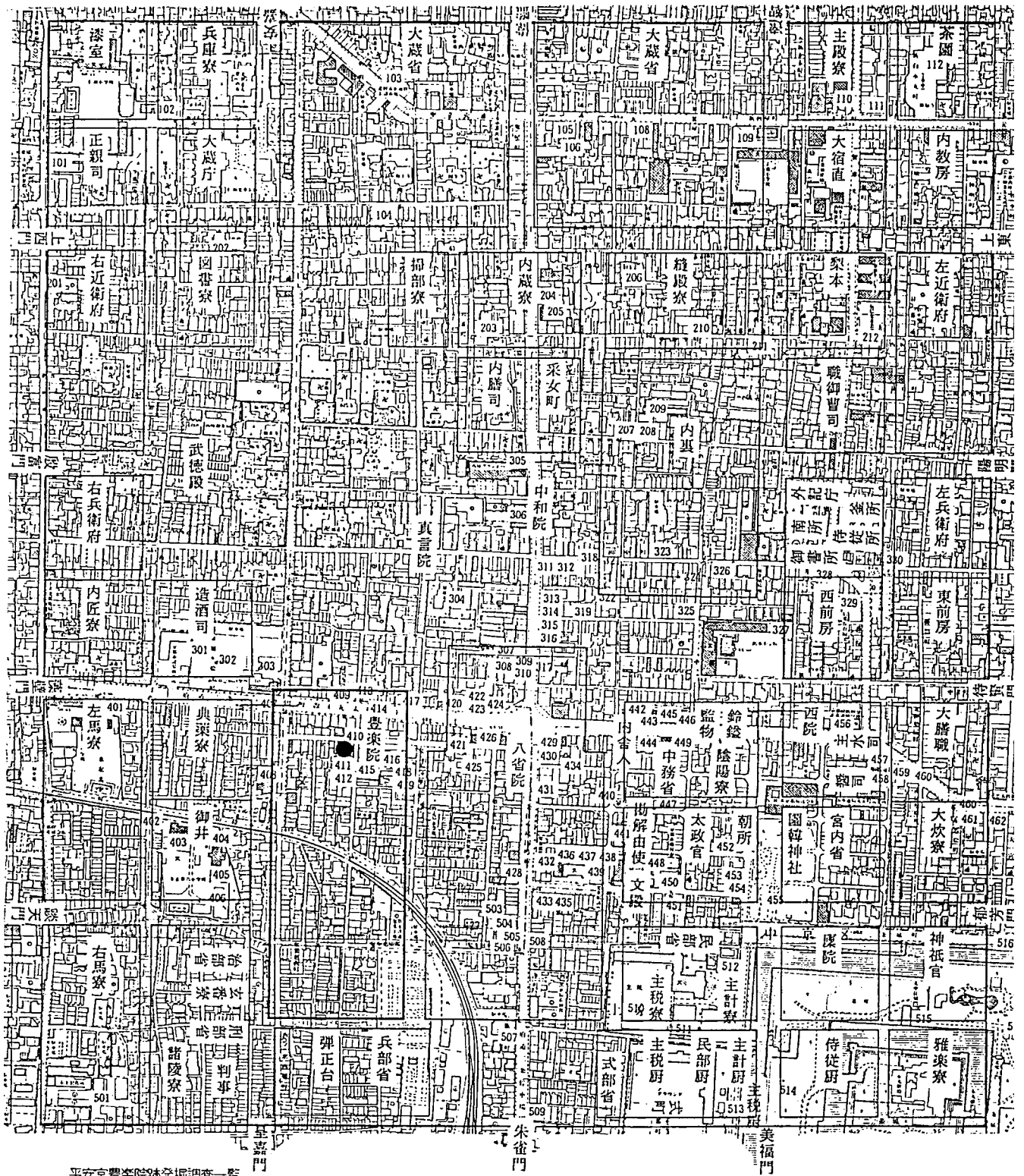
— 発掘調査現地説明会資料 —



説明文庫本

1987年12月6日(日)

財団法人 京都市埋蔵文化財研究所



平安宮豊楽院跡発掘調査一覧

番号	所在地	発掘地点(推定)	調査者	掲載誌
407	中、丸太町通七本松~千本	朝堂院・豊楽院跡	埋文	埋文概要 57
408	中、七本松通丸太町下	豊楽院西築垣跡	平博	平博立会調査 51
409	中、聚楽廻西町78	豊楽院跡	埋文	埋文概要 56
410	中、聚楽廻西町	豊楽院跡	平博	
411	中、聚楽廻西町89	豊楽院跡	平博	年次報告 1976-1
412	中、聚楽廻西町98	豊楽院跡	平博	古代文化26-4 1974
413	中、丸太町通七本松東入	豊楽院跡	埋文	平安京跡概要 1978
414	中、千本通丸太町下	豊楽院跡	平博	古代学6-4 32.2
415	中、聚楽廻西町98	豊楽院跡	埋文	平安京跡調査報告55
416	中、聚楽廻西町56	豊楽院跡	埋文	
417	中、聚楽廻中町40	豊楽院跡	埋文	平安京跡調査報告55
418	中、聚楽廻中町	豊楽院跡	平博	古代文化29-11 1977
419	中京区聚楽廻中町45	豊楽院跡	平博	研究紀要3-2 46

※ 調査者 埋文-財団法人京都市埋蔵文化財研究所
 市-京都市文化財保護課
 平博-財団法人古代学協会(平安博物館)

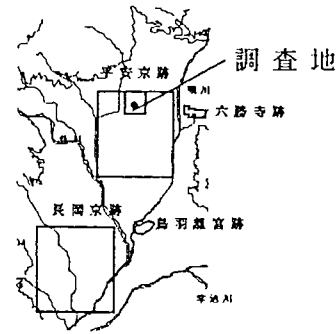
● 調査位置

平安宮 ぶらくいんせい でん 豊楽院正展跡亦

発掘調査現地説明会資料

1987.12.6

所在地 京都市中京区聚楽廻西町85
調査期間 1987年10月20日～継続中
面積 約450m²
調査機関 (財)京都市埋蔵文化財研究所



1. 過去の調査

豊楽院の考古学的な調査は比較的早く、昭和3年2月に西田直二郎、佐藤虎雄両氏によって実施されている。調査地点は当調査地の北方、現在の丸太町通りにあたる。この時に発見された遺構はその後、不老門ふろうもんと清暑堂せいしょどうの基壇でないかと考えられている。(財)古代学協会が昭和45年から46年にかけて行った下水道工事の立会調査では、豊楽院に関する凝灰岩が数箇所で見出されている。次いで同協会は昭和48年に豊楽殿の南側を調査したが、明確な遺構が発見されなかった。しかしながら、焼土や多量の瓦が出土した。

豊楽院の遺構が初めて明らかになったのは、昭和51年4月に当調査地南側で行った調査である。一辺2.2～2.4mの礎石据え付け跡と基壇の版築を検出した。

以上の調査成果などから、当調査地と東の宅地が高くなっているから、豊楽殿の基壇であることが徐々に明らかとなってきた。

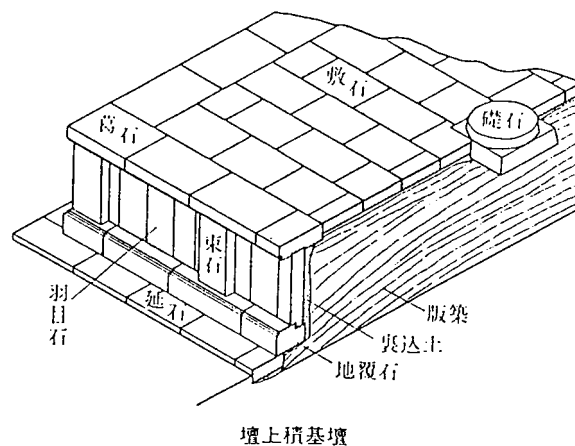
2. 調査の成果

1. 豊楽殿の北西隅及び北廊の一部を検出した。
2. 豊楽殿は7間4面ひとやす くりやす(桁行9間、梁行4間)の東西棟であることが明らかとなった。
3. 基壇化粧の凝灰岩がほとんど抜き取られていたが、一部残存しており壇上積基壇の原状を知ることができた。
4. 階段は基壇北辺部の中央間と中央間から西へ3間目に取り付けていたことが明らかとなった。
5. 礎石の据え付け跡は一辺2.2～2.4mの方形である。
6. 緑釉を施した軒瓦や熨斗瓦おし しぶ、鴟尾などが出土した。
7. 出土した遺物のほとんどは瓦で、土器類は極めて少ない。

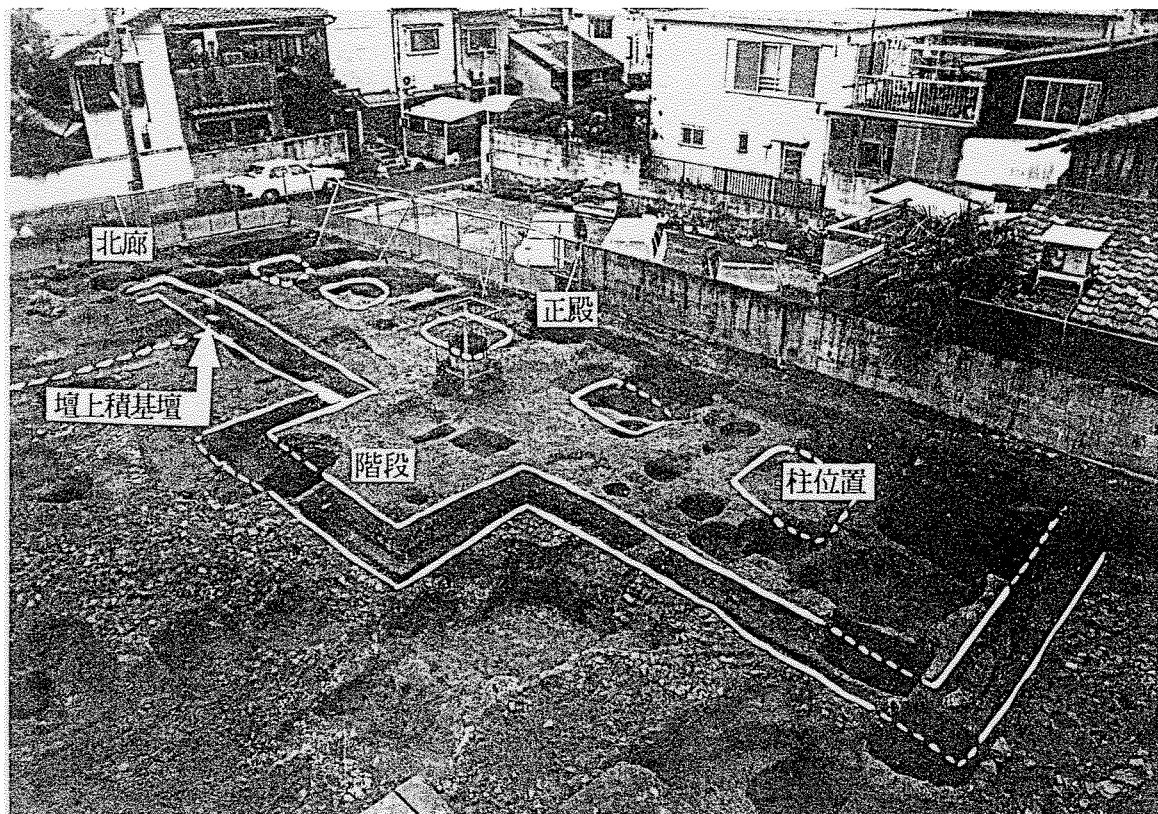
豊楽院 豊楽院は朝堂院の西側に位置し、天皇の宴会の場所で^{せちえ}節会、^{しやらい}射礼、^{くらへうま}競馬、^{すまい}相撲などが行われた。即位も行われることがあった。豊楽院の正殿を豊楽殿と言う。

豊楽院略年表

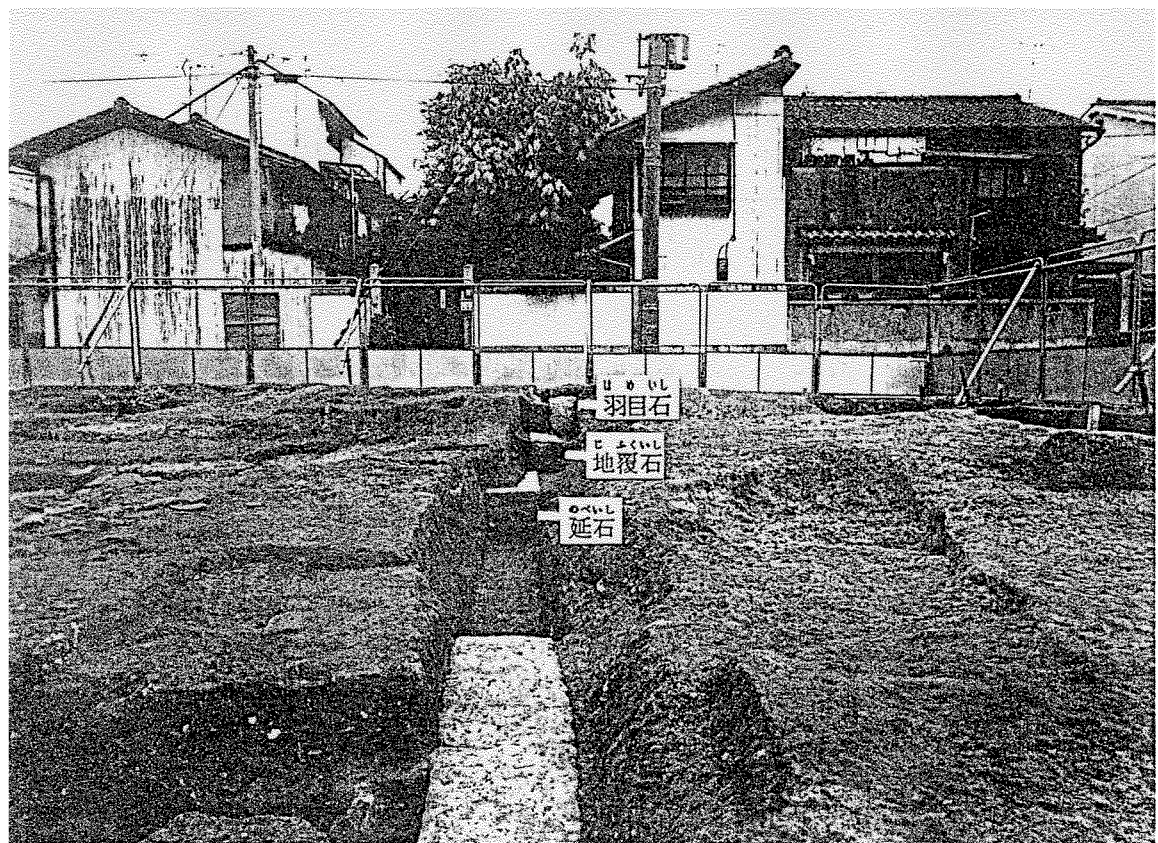
- 延暦 19年頃 (800) 豊楽院完成
- 貞元 元年6月18日(976) 大地震により八省院、豊楽院、東寺、西寺など顛倒す(日本紀略)
- 永祚 元年8月13日(989) 大風雨により豊楽殿の東西の廊十四間顛倒破壊す(日本紀略)
- 長保 2年4月4日(1000) 雷火で豊楽院の一部を焼く(日本紀略)
- 寛弘 2年9月10日(1005) 高階業遠に豊楽院、羅城門修造の宣旨を下す(御堂関白記)
- 万寿 2年8月12日(1025) 新阿弥陀堂(法成寺)の造営にさいし、藤原道長が豊楽院の鴟尾を取ろうとする(小右記)
- 長元 2年4月15日(1029) 八省院、豊楽院を修理する(小右記)
- 康平 6年3月22日(1063) 豊楽院が焼亡する。以後再建せず(百練抄)



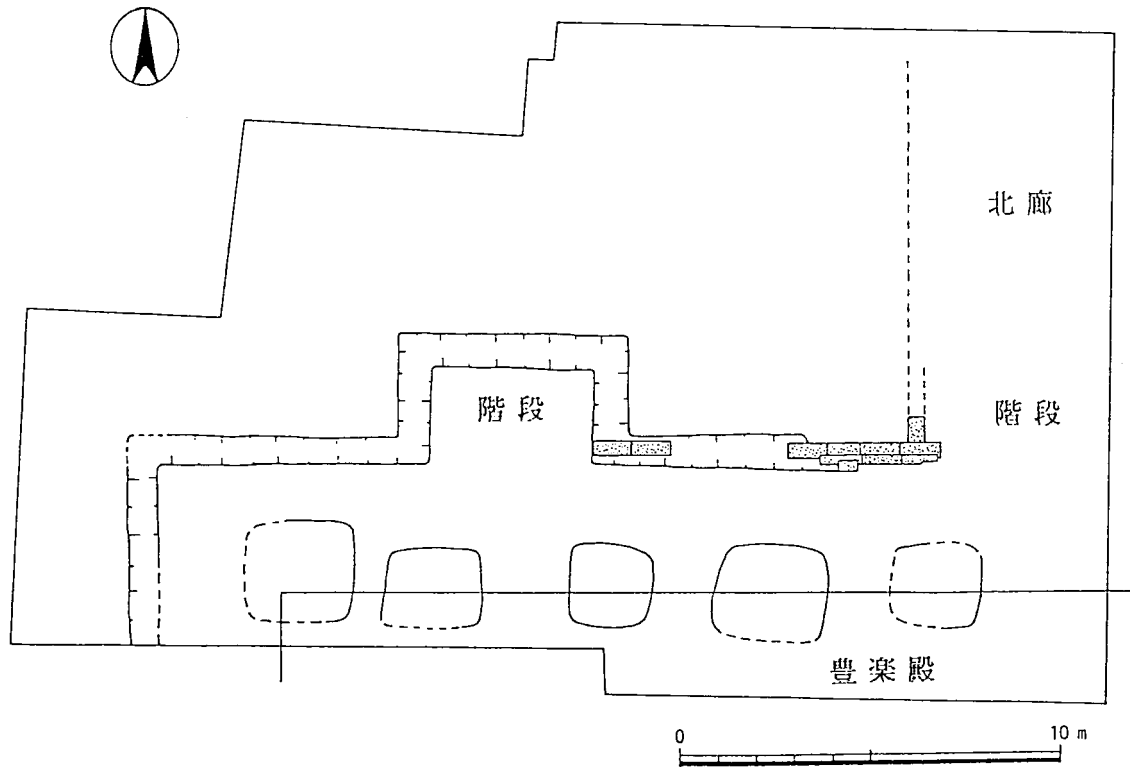
『古代日本を発掘する』2 より



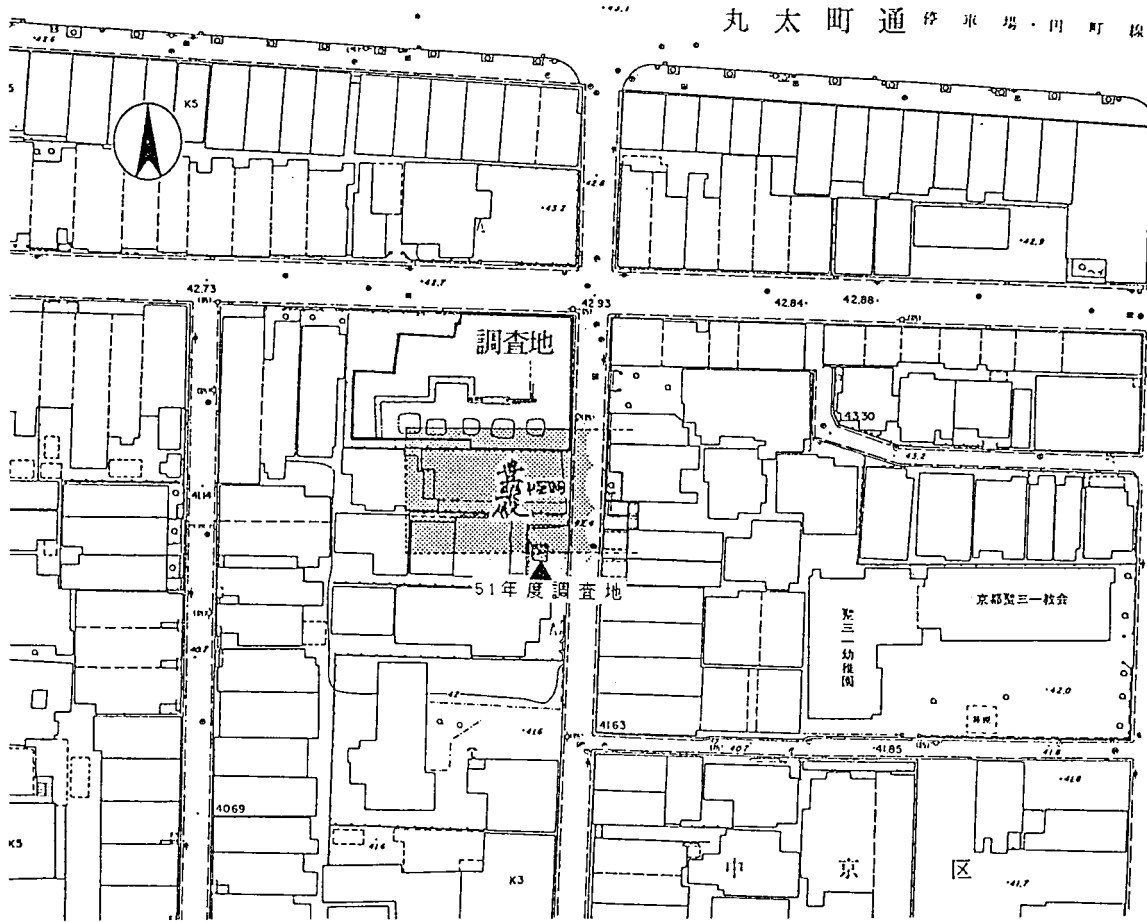
調査地全景(北西から)



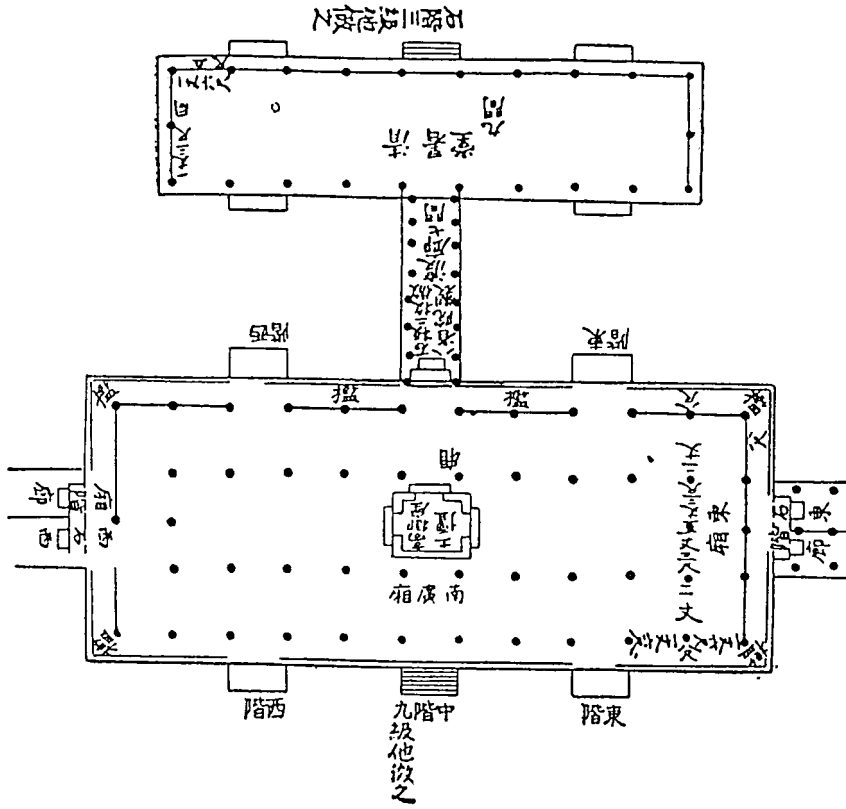
基壇化粧の凝灰岩(西から)



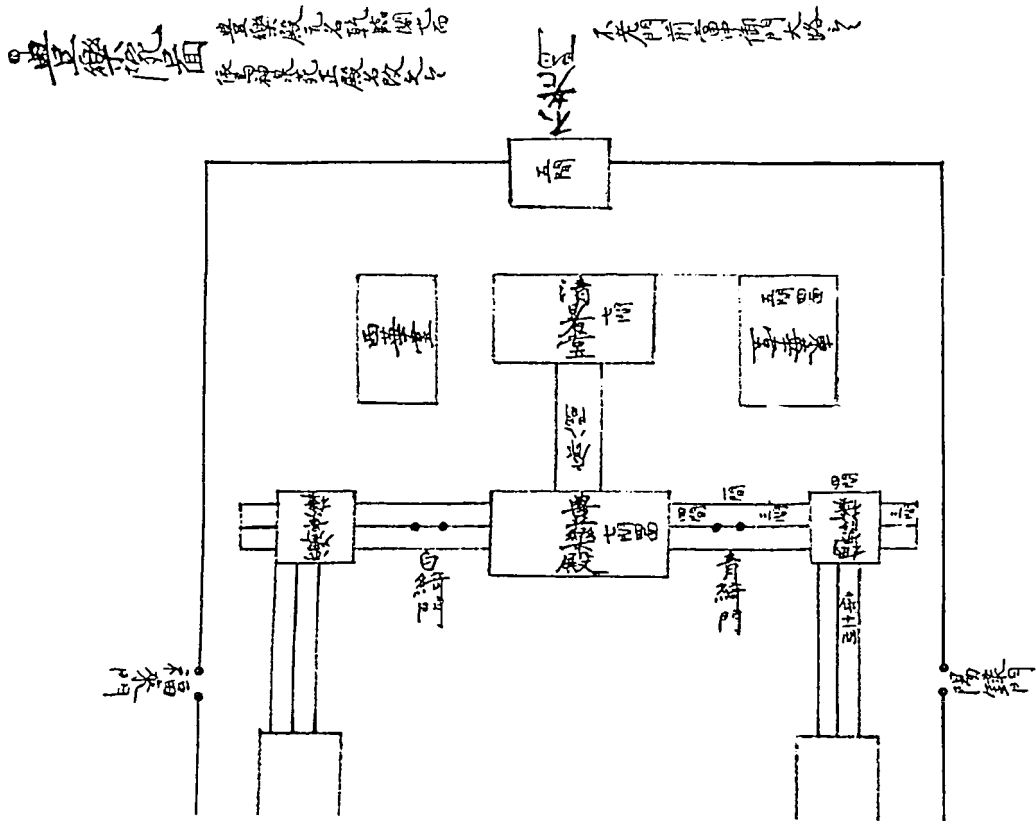
遺構配置図(1:200)



調査位置図(1:1000)



『大内裏図考證』より



『陽明文庫』より



大極殿東面部分『年中行事繪巻』より

京都市都市計画による同市丸太町千本西入る丸太町線延長工事場の大極殿跡附近から過般精巧な唐草模様のある厚さ一寸五分ぐらゐの青みがかった瓦の破片多数を発見つゝいて約一町西の京大文学部教授羽田亨博士宅裏から大きな古い礎石の一端を発掘した。京大文学部国史学教授西田直二郎、東洋史学教授羽田亨博士と建築学教授天沼俊一博士は二十日助手十名、学生五名、それに物理学教室の助手五名らにも実地調査を行つたが、その結果、青みがかった瓦の破片は大内裏の大極殿のもので、礎石は當時大極殿の西にあつた豊樂院の礎石と判明、御大典の行はせられる年のしかもわが國最初の

めでたき御大典年に―― 大内裏の礎石を発見

千二百年前の考古資料

大極殿豊樂院の礎石か



豊樂院の礎石調査

普通投票日に千二百年前の大内裏の礎石を発見したことは奇しき因縁であること大いに喜び、引つゞき

大調査を行ふこととなつた、右につき西田博士は現場で語る「この大内裏は桓武朝が延暦十三年、平安に都を築められた時からのものでその中であつた大極殿の豊樂院は約千二百年前の建築にかゝるものである、今回発掘せられた澤山の瓦の破片のうち青みがかったものは大極殿に使用してあつたもので、礎石の方は位置その他の點から豊樂院（跡の大儀式の行はれたところ）のものと思はれる、しかしそれが豊樂院の中の大極殿の礎石であるか否かは今少し調べなければ判然と申しあげられない、この礎石は基段の角が約二間あり大へん大きなものでかつた大内裏跡の礎石が発見されたことは古い都の京都で今回が最初であり、歴史上にも考古学上にもまた建築学上にも一大発見といはねばならない」

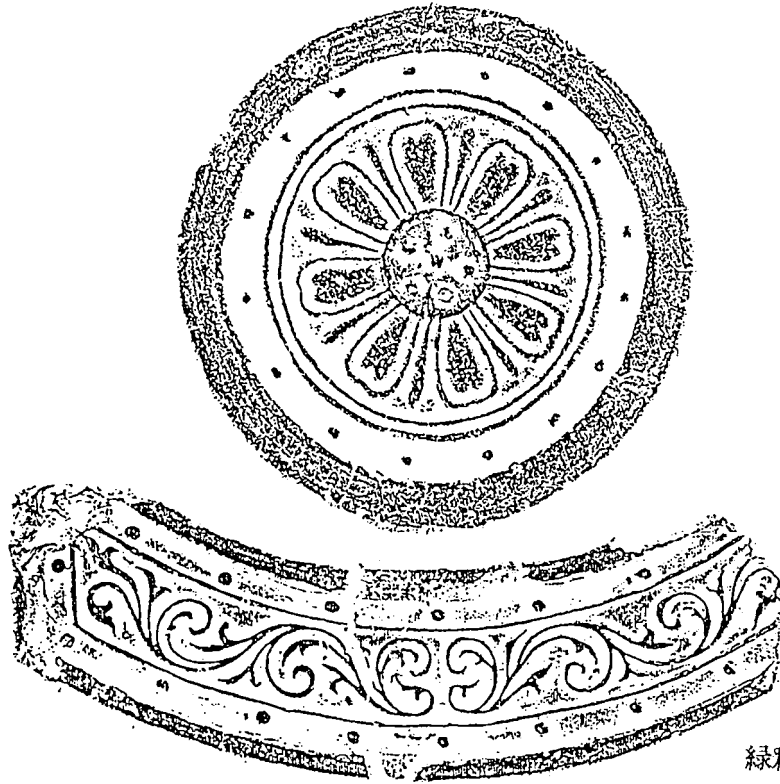
昭和3年2月21日の新聞記事より



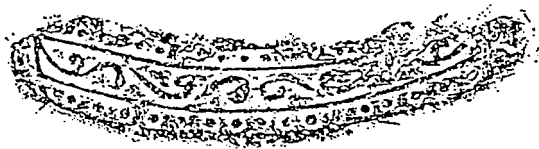
鬼瓦(平安前期)



羅城門の三彩鬼瓦 「古代の瓦」稲垣晋也編より
(平安前期 教王護国寺)



緑釉 軒瓦 (平安前期)



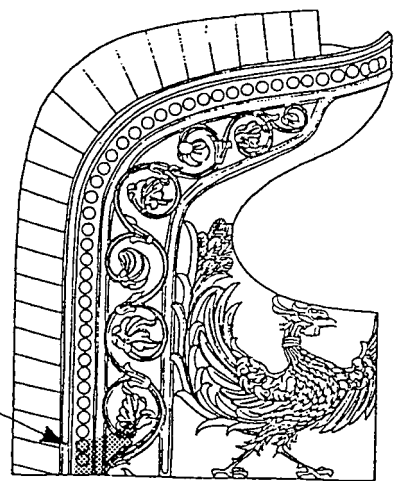
軒平瓦 (平安中期)



軒平瓦 (平安中期)



鴟尾 (平安前期)



上庄田瓦窯跡出土鴟尾復原図
「日本古代の鴟尾」より